

1. 全体施工計画

(1) 基本計画における段階施工計画

第2調節池の掘削の進め方について、昨年度策定された渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画にて、「掘削による湿地環境への影響を低減し、新たな知見を次段階にフィードバックすることを目的として掘削順位と掘削範囲を段階的に定めた上で掘削を実施することとする」として、段階施工の考え方が示されている。

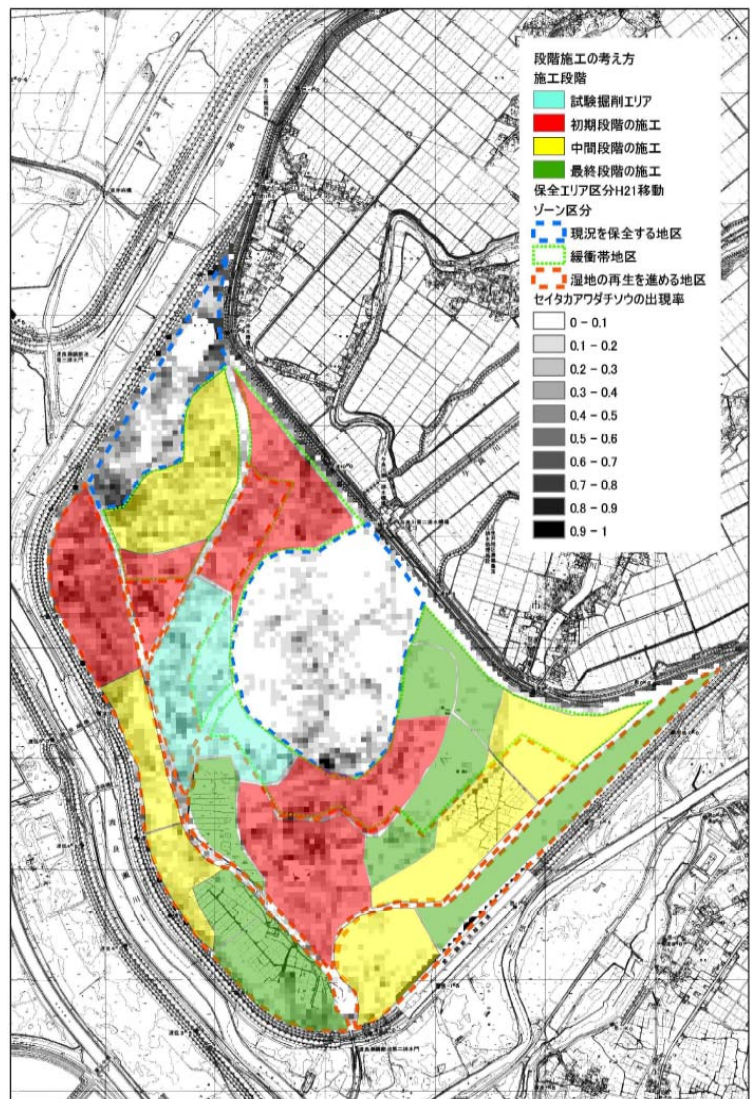
この段階施工計画を基本とし、重要種補足調査などのモニタリング結果をフィードバックして、施工順序、施工範囲等の再検討を行いながら事業を継続していく。

【掘削順序、掘削範囲】

1. 試験施工
2. 初期段階
3. 中期段階
4. 最終段階

【掘削順序、掘削範囲の考え方】

- ① 現況を保全する地区への影響を考慮して水路に近い地下水水深の深いところから施工する
- ② セイタカアワダチソウ等が多く生育している場所を優先して施工する
- ③ 環境の急激な変化やモニタリング時の影響、順応的管理のための時間を考慮し、連続した近接施工を避ける
- ④ 現況を保全する地区においても、セイタカアワダチソウ等が多く生育している場所があるため、段階的な施工に影響を及ぼす場合は、必要に応じて順応的に計画を見直す。

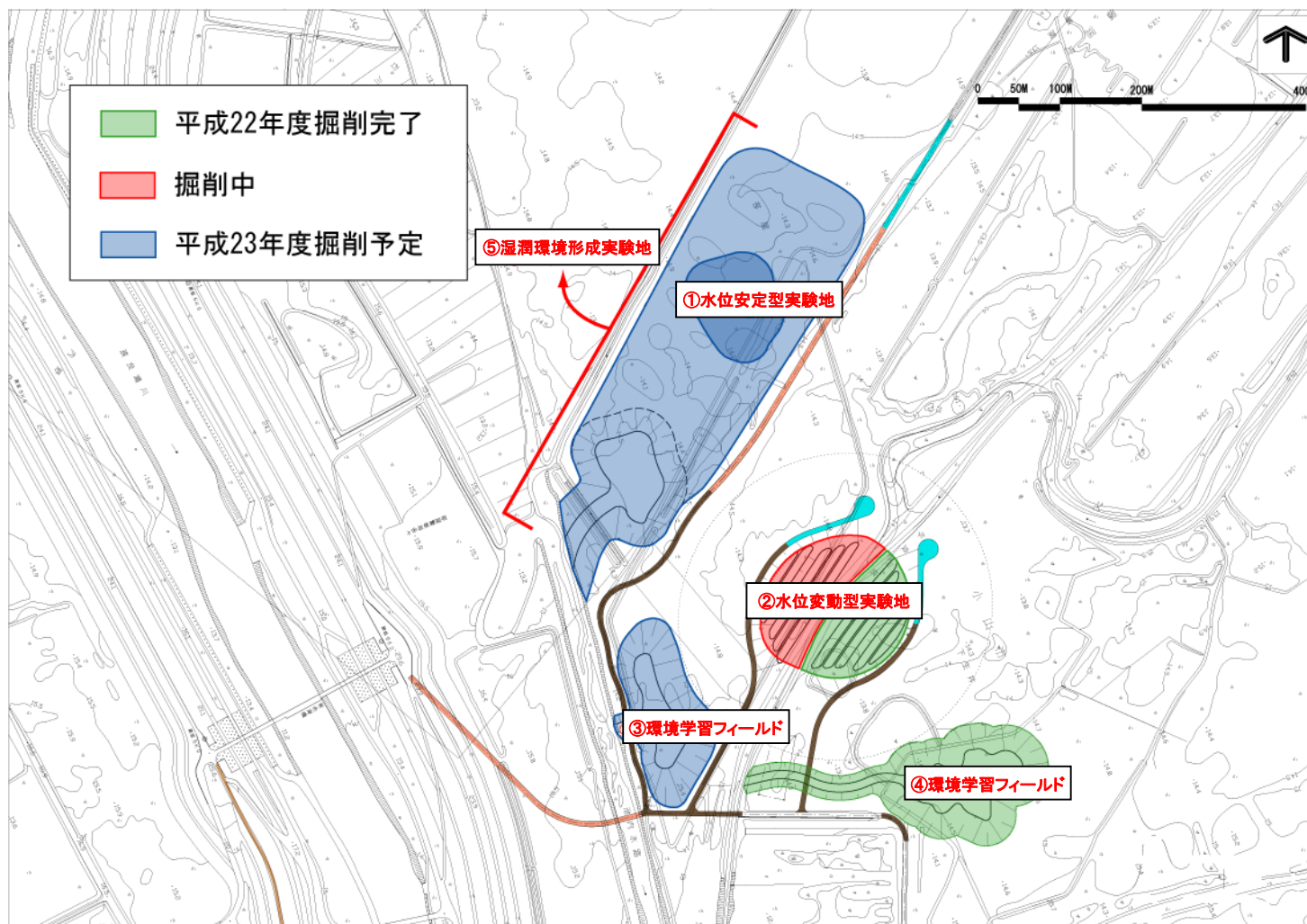


段階施工の考え方(基本計画)

1. 試験施工エリア

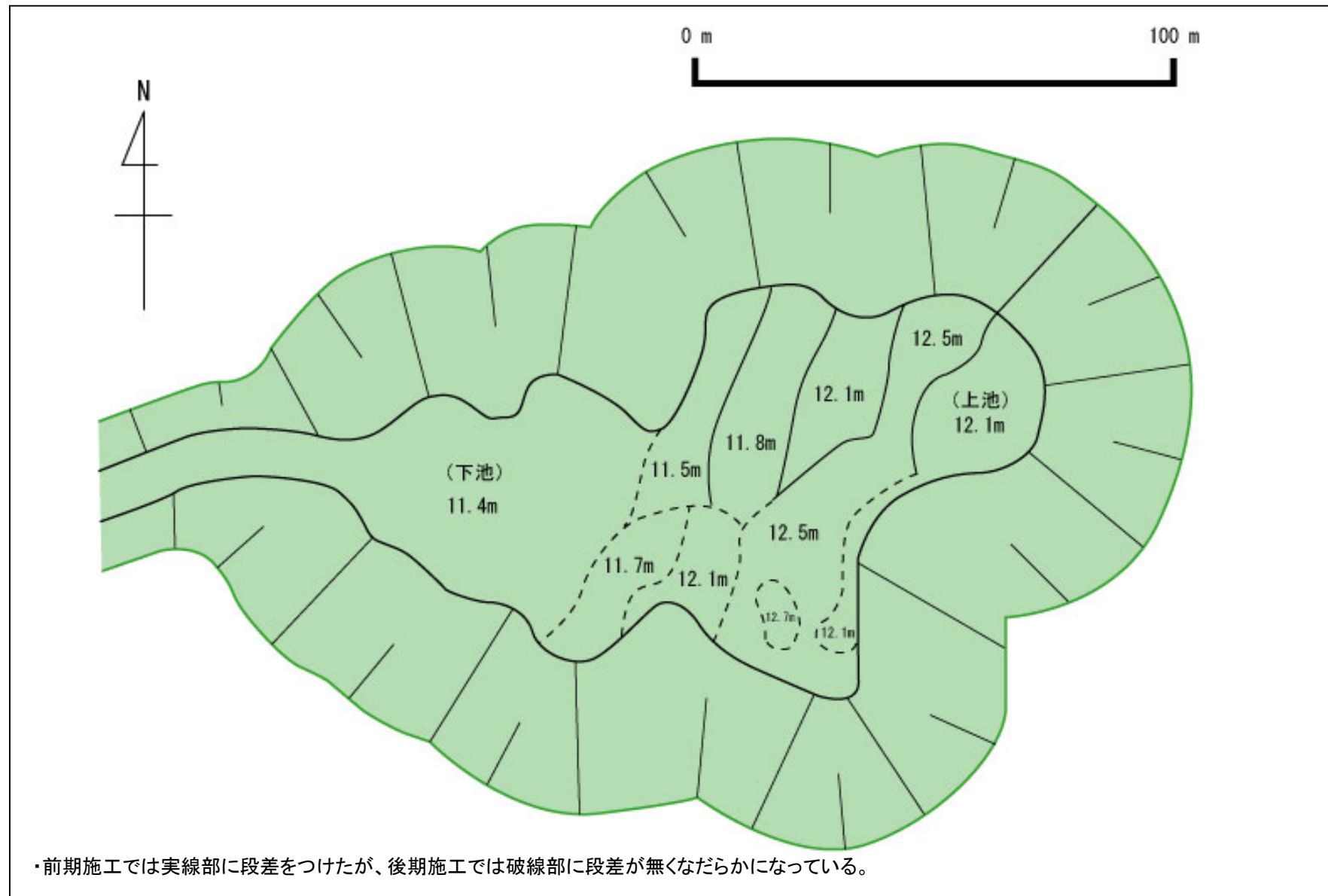
(1) 試験施工エリア掘削進捗状況

試験施工エリアの掘削進捗状況を以下に示す。

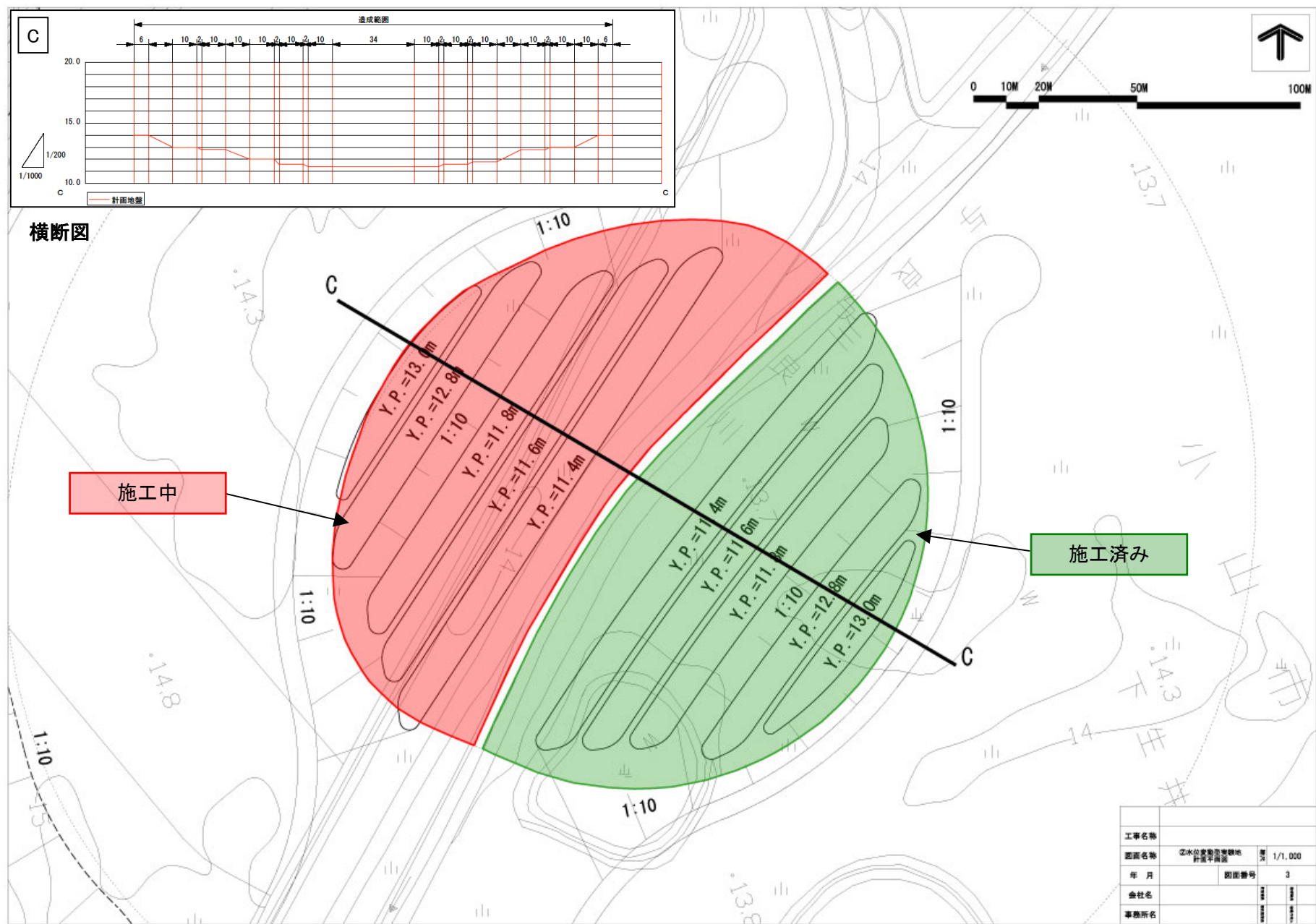


(2) 各試験施工エリア平面図

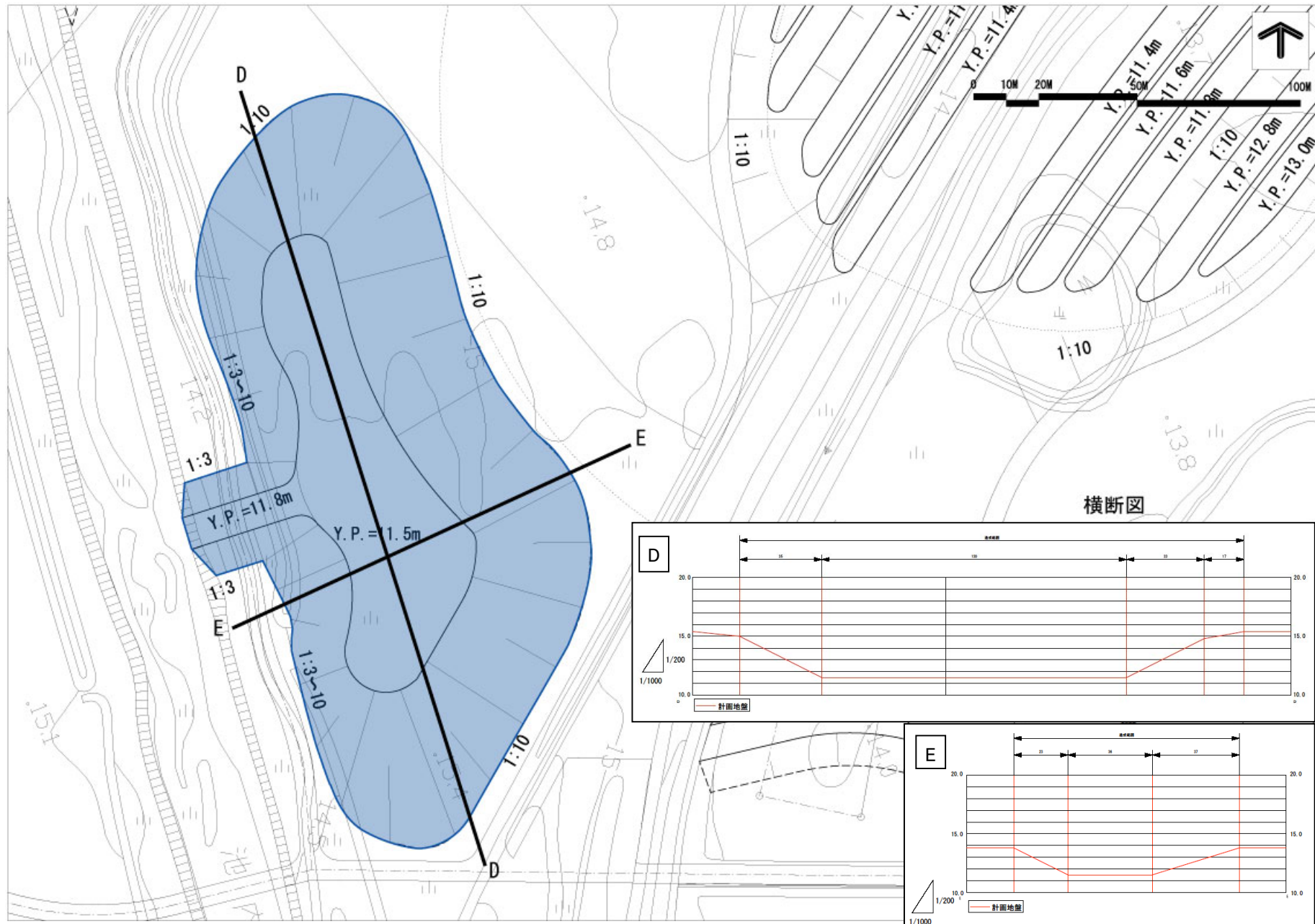
④環境学習フィールド（１）（施工済み）



②水位変動型実験地（一部施工済み）（図面は計画当初であり、実施工では現過去の知見等を参考に掘削形状を考慮しながら施工する。）



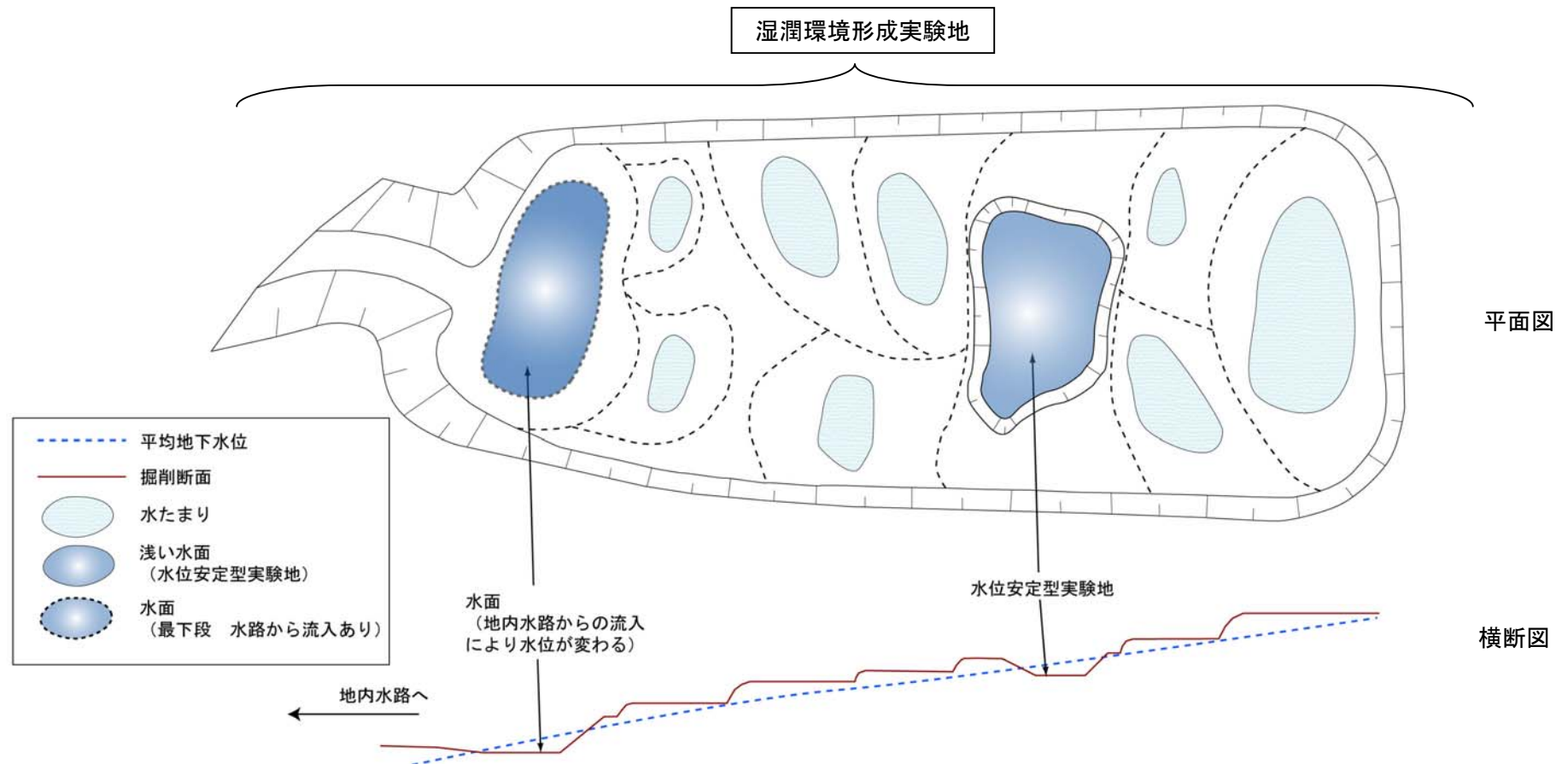
③環境学習フィールド（２）（H23 施工予定）（図面は計画当初であり、実施工では過去の知見等を参考に掘削形状を考慮しながら施工する。）



①水位安定型実験地および⑤湿潤環境形成実験地（H23 施工予定）

水位安定型実験地および湿潤環境形成実験地のレイアウトを以下のとおりイメージした。

- ・施工性、地下水の染み出し状況、貯留効果などを考慮して、湿潤環境形成実験地はスロープ状ではなく“棚田型”に掘削する。
- ・湿潤環境形成実験地の水たまりおよび水位安定型実験地は、地下水と雨水にてかん養される。
- ・出水時の地内水路からの越流の可能性および出水時の実験地からの排水の必要性を考慮し、水位安定型実験地を湿潤環境形成実験地の中程に配置した。水位安定型実験地を池内水路と分離することにより、水位安定型実験地では安定した水面高を自由に設定することが可能と考える。
- ・湿潤環境形成実験地の最下段は、地内水路と接続した少し深めの水面としている。



(3) 試験施工エリアの施工計画

表 平成 23 年度の施工計画

実験地	実験地の目的	施工計画	
		平成 22 年度	平成 23 年度
①水位安定型 実験地	地下水を水源とする水位の安定した、貧栄養な実験地において、シードバンクや外部からの飛来、鳥等の持ち込んだ種子による水辺植生の成立、開放水面下における水生植物再生状況についてモニタリングする	未施工	
②水位変動型 実験地	洪水の攪乱による影響や種子の定着動態の把握、冠水によるヤナギ類や外来種（セイタカアワダチソウ）の生育抑制状況等についてモニタリングする	施工中	
③環境学習 フィールド	環境学習・地域連携の場として、一般市民や子供達が自由な発想で活用できる変化に富んだ地形、自然環境の多様なフィールドを提供する	未施工	
④環境学習 フィールド		施工済み	—
⑤湿潤環境形成型 実験地	平均地下水位に沿った掘削を行うことにより地下水や雨水により涵養された小さな池沼が点在する湿潤環境を再生する手法を検討するとともに、そこに生息する小動物をモニタリングする	未施工	